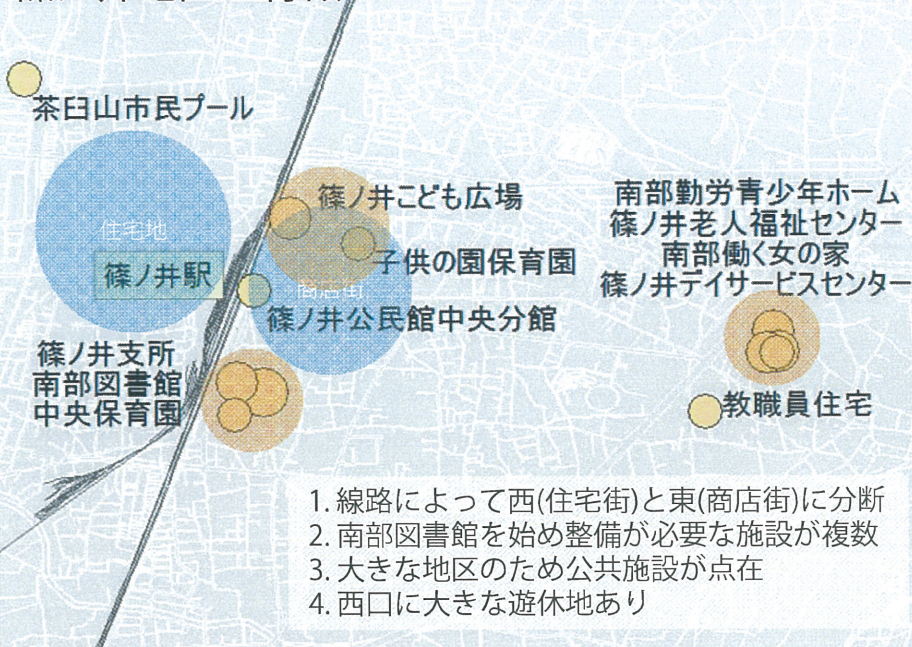


篠ノ井地区の特徴



1. 線路によって西(住宅街)と東(商店街)に分断
2. 南部図書館を始め整備が必要な施設が複数
3. 大きな地区のため公共施設が点在
4. 西口に大きな遊休地あり

現状の課題

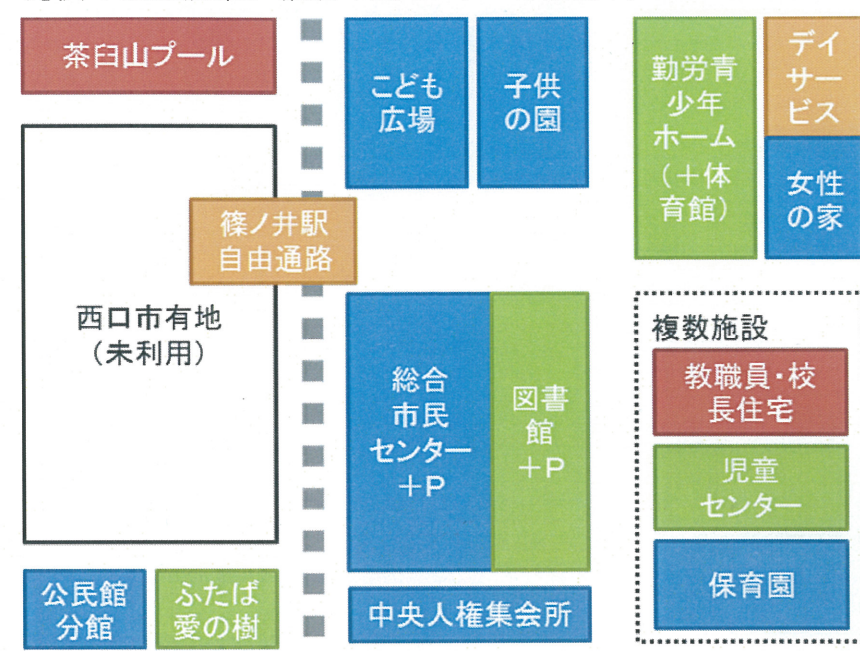
長野市は、比較的規模が大きな公共施設を多数保有しているため、基本的に縮小・除却・譲渡等による保有床面積の縮小＝財政負担の縮減が求められている。
※公共施設等総合管理計画を参照



施設整備の考え方

単なる総量削減ではなく篠ノ井地区に求められている公共サービスの向上を目指す。
➡地域全体(全員)で地域にある公共施設の役割を確認し将来を見据えた整備案を作成する必要あり
※これまでの生活+これからの生活を考えるきっかけに

現状の施設配置 (総合市民センターは整備中)



篠ノ井地区再編計画案 0827Ver.2

篠ノ井地区の公共施設について考える市民ワークショップ BaSSプロジェクト 長野/前橋工科大学堤研究室

自由通路で本が読めたら楽しそう...

西口に南部図書館が移設したら...



自由通路活用案

JR篠ノ井駅の自由通路を改修し新しい形の図書館＝「本の道」による東西の連携と、西口にある遊休地に子どもと大人の小さな交流拠点(遊学館)+こども広場(公園)の新設により、多世代の交流・集いを実現する

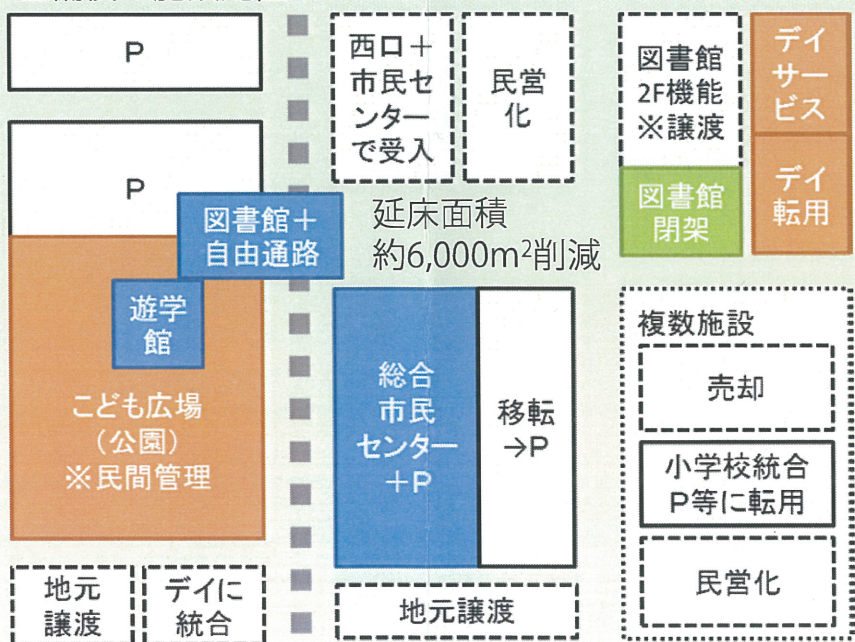
[整備のポイント]

1. 東西の連携活性化
2. 面積最小限・機能拡大
3. 施設間の連携強化
4. 広場+Pとして全面活用

[留意点]

1. 時期により混雑の可能性
2. 移動距離は長くなる
3. 図書館が分散
4. Pと施設が離れてしまう

整備後の施設配置



西口移設案

南部図書館の複合化+西口にある遊休地への移設により、JR篠ノ井駅西側に多世代が交流・集いを目的とした子供広場と図書館の新設により、機能と床面積の集約化による利便性の向上を図る

[整備のポイント]

1. 西口に集約・拠点に
2. 面積削減実現・機能拡大
3. 駐車場の充実
4. Pとして活用(一部未活用)

[留意点]

1. 東西の隔たり残る可能性
2. 西口以外への展開少ない
3. 駐車場以外の活用も検討
4. 遊休地の活用検討

整備後の施設配置

